

米国姉妹都市派遣高校生 渡航レポート

町内在住の高校生2名が町姉妹都市協会の事業により7月24日(水)から8月7日(水)までの2週間、米国オハイオ州デイトン市に派遣されました。ホームステイや市民との交流など貴重な体験をした高校生たちのレポートをご紹介します。

問 総務課 内線 210

「二度とない貴重な経験」 松岡 佳那

私のホストファミリーはお父さんがベトナムからのポートピープルでした。私は衝撃を受けました。ホストファミリーは真面目で、勤勉、節約家で、とても尊敬できる人達でした。例えば、お祭りでゲームをしようとした時、「無駄遣いをするな」と叱られました。その他にも、道徳的なことを色々教えてくださいました。私を本当の娘のように思い、接してくれたことは、とても有り難く、真摯に生きている人の愛情を感じることができました。私は毎日、食事の支度を手伝い、洗濯や掃除もホストシスターとこなしました。それはとても勉強になり、リアルなアメリカの日常生活を体験することができました。

日曜日にベトナム人教会に行った時、礼拝に来てい

た人達が、全員で私の幸せを祈ってくれました。その人たちは皆、ベトナム戦争を経験してきたであろう人達です。そのことに私は深く考えさせられました。

ホストファザーの壮絶な戦争体験を詳しく聞いたことはとても貴重な経験になりました。アメリカ、ベトナム、日本を取り巻く歴史を、今後もっと深く勉強したいと思います。毎日が刺激的で、楽しいことも山ほどありましたが、これが私にとって一番強く印象に残ったことです。



▲右上が松岡さん、一番左が春田さん(デイトンドラゴンズ(野球チーム)のスタジアムにて)

“ARIGATO” 春田 杏奈

私のホストファミリーが最初に覚えた日本語がこの言葉です。全員がとても日本語に興味があり、夕食後の日本語講座は毎回盛り上がりました。食事の前は「ITADAKIMASU」、食後は「GOCHISOSAMA」、寝る前は「OYASUMI」。ホストペアレンツと5人の子ども達、レベッカ(24歳)、ダニエル(23歳)、アビゲル(19歳)、レイチェル(16歳)、ジョン(15歳)とはよく一緒にボードゲームに興じました。勝つと「ICHIBAN!」と叫び、負けた人を「NO ICHIBAN」とからかい、笑いが絶えませんでした。なかなか手強かった私は「DREAM CRUSHER」でした。デイトン最後の夜は日本のお土産の風呂敷でバッグ作りです。菱菊柄の長寿の意味は両親を、桜、撫子は姉妹を、青海波柄はレ

イチェルを喜ばせました。忍者柄をジョンは甚く気に入り、普段おとなしいダニエルも興味津々。レベッカが得意げに姉弟に教える光景は微笑ましく、このままずっとここにいたいと心の中で願いました。出発前に決めた目標の一つ

は「I want to try many new things.」帰国する日、ママが、「I'll miss your enthusiasm for trying new things.」と言ってくれました。達成できた模様です。



▲前列左から松岡さん、春田さん(デイトン市庁舎にて)

旧吉田茂邸再建基金寄附者一覧③(12件：5月1日～7月31日)

7月31日現在、総額258,531,537円の寄附をいただきました。ご協力ありがとうございました。(寄附受付順、敬称略)

氏名(名称)	住所(所在地)	寄附金額
鈴木 馨	大磯町	¥20,000
和田 正	藤沢市	¥10,000
匿名	※※※※※	¥500,000
匿名	※※※※※	¥15,643
植田 光子	長崎県	¥8,000

氏名(名称)	住所(所在地)	寄附金額
瀬戸 三津夫	※※※※※	※※※※
大磯ユニカールクラブ	大磯町	¥20,747
土方 良平	大磯町	¥10,000
高橋 力	岩手県	¥10,000
二槌木 幸雄	※※※※※	※※※※

※上記の他、2人の方から寄附をいただいております。

※その他、エフ・ヴィセントラル株式会社より環境美化センターに設置の旧吉田茂邸再建応援自動販売機3～5月売り上げ実績分から寄附をいただいております。

問 産業観光課 内線 248